東中

学力の向上を目指して自ら学ぶ生徒の育成

～主体的な学びを支える学習指導法の研究を通して～

（３年計画の１年次）

校長　横　濵　　由　紀

１　研究主題について

本校では、昨年度「課題の解決に向けて主体的に取り組む生徒の育成～『自発的行動力』の向上を促す指導を通して～」の研究主題のもと、課題解決に向けた取組として授業づくりや、９ＢＬＯＣＫＳを取り入れることで、生徒の課題解決に向かう態度の育成に取り組んできた。その結果、自ら課題を設定し、その達成に向けて取り組もうとする意識に高まりが感じられた。しかし、その効果は学校行事や定期考査週間に限定されており、学習に対して「より上を目指し、主体的に取り組む姿勢」を十分に育成することができなかったという課題が残った。そこで、今年度からは「学習習慣の定着」を主眼に置き、各教科における授業づくりの工夫と、学習方法を身に付けさせることで学力の向上を目指すことを目標とし、本研究主題を設定した。

２　研究のねらい

本校生徒は落ち着いた態度で授業に臨んでいるが、昨年度のＮＲＴの結果を見ると、学習内容が十分に定着しているとは言い難い状況にある。昨年度、９ＢＬＯＣＫＳにより課題を設定し、達成に向かう意識は高まったが、学習に対しての主体的な取組に結びついていない点と、学習方法が身に付いていないため、家庭での学習が習慣化していない点が原因として考えられる。

主体的な取組を促すためには、それぞれの生徒が学習内容を理解していることが前提となる。「わかった、できた」という思いが学びの喜びとなり、「主体的な学び」へと繋がると考えられるからである。そこで、今年度から３年計画で、各教科における授業づくりの工夫と、生徒に学習方法を身に付けさせるための方法について、全教員で研究を進めていくこととする。

今年度は、生徒が進んで学習に取り組むことができるよう、導入から展開における教師のはたらきかけの工夫について重点的に研究する。授業における充実感や達成感が、学習への主体的な取組を促すことができるということを検証したい。

３　研究仮説

導入から展開における教師のはたらきかけを工夫し、生徒が課題意識をもって授業に臨むことで、学習に主体的に取り組む態度を高めるとともに、充実感・達成感を味わわせることができるものと考える。

４　研究内容

(1)　各教科、領域における教師のはたらきかけの工夫

(2)　特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり

(3)　１人１台端末の効果的な活用とＩＣＴ機器を効果的に活用した授業づくり

(4)　９ＢＬＯＣＫＳとＰＤＣＡサイクルの活用

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	内 容 ・ 授 業 の 概 要 等
５	２９	小・中学校ジョイントスクール推進事業における公開授業（全教科・全学年）
６	１	ペアによる授業参観①　授業者：古町
７	１８	指導課計画訪問（全教科・全学年）
１１	３０	ペアによる授業参観②③　授業者：溝江、谷内
１２	１	ペアによる授業参観④　授業者：中村
１２	８	ペアによる授業参観⑤⑥　授業者：田中、立花
１２	１１	ペアによる授業参観⑦⑧　授業者：小山、今
１２	１３	ペアによる授業参観⑨⑩⑪⑫　授業者：八幡、小山田、佐々木（敬）、佐々木（ミ）
１２	１４	ペアによる授業参観⑬⑭　授業者：武内、原田
１２	１５	ペアによる授業参観⑮　授業者：吉田
１２	２０	ペアによる授業参観⑯　授業者：柴田

(2) 一般研修

月	日	内 容 ・ 講 師 ・ 概 要 等
４	５	特別な配慮を必要とする生徒についての共通理解
４	２６	今年度の校内研究の進め方について
５	１９	計画訪問指導案の様式について
５	２９	東中学区の小学校教員との学習習慣定着に向けての共通理解
８	２１	Ｇｏｏｇｌｅ　Ｆｏｒｍｓの活用方法について（本校視聴覚部会）
９	２２	９ＢＬＯＣＫＳとＰＤＣＡサイクルの活用（各学年の取組について）
１１	１４	「ＵＤの視点を取り入れた通常学級における授業づくり研修講座」の資料伝達
１	１８	今年度のまとめ（成果と課題）

６　研究の成果

(1) 導入から展開におけるはたらきかけを工夫することにより課題意識をもって主体的に学習に取り組む態度が育成されたことを、多くの教師が実感している。また、ペアによる授業参観を実施し、全教員が研修に参加したことで、授業づくりの工夫に対する教員の意識をさらに高めることができた。

(2) 昨年度に続き 「９ＢＬＯＣＫＳとＰＤＣＡサイクルの活用」を行うことにより、目標のもち方や行動に変化が見られた。また、視聴覚部会による「Ｇｏｏｇｌｅ　Ｆｏｒｍｓの活用方法について」の研修により、授業における生徒への課題提示の方法や１人１台端末の活用について各教員が考える機会となった。

７　研究の課題

(1) 導入から展開におけるはたらきかけを工夫することで、主体的に学習に取り組もうとする態度の育成につなげることはできたが、より多くの生徒の主体的な学びにつなげるためには生徒理解とＵＤの視点を取り入れた授業づくりについて研修する場を確保する必要がある。

(2) ペアによる授業参観は全教員の研修への参加と意識の向上につながったが、複数の授業を参観する機会を設けたり、集中授業と協議を行ったりするなど、取組内容の幅を広げていく必要がある。

（記入者　佐々木　由子）